

2025年度

佐賀大学総合型選抜 I 試験問題

教育学部学校教育課程

小中連携教育コース

(中等教育主免専攻)

適性検査 (技術分野)

解答上の注意事項

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 「解答始め」の合図があったら、解答紙の所定欄に受験番号を記入すること。
- 3 問題の解答は、別に指示がある場合を除き、所定の解答欄に記入すること。
- 4 問題について、疑問がある場合は、手を挙げて質問を行うこと。
- 5 問題紙、下書き用紙は持ち帰ってはならない。
- 6 その他、監督者の指示に従うこと。

(問題)

近年、気候変動の進行による影響が危機的な状況にあると言われている。その危機感を伝えるため、アントニオ・グテーレス国連事務総長は、昨年7月27日の記者会見において「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と述べて注目された。

(https://www.unic.or.jp/news_press/messages_speeches/sg/49287/ 参照)

これを裏付けるかのように、佐賀市でも、記録的暑さであった1994年を上回り、年間猛暑日が過去最多になったとの報道があった。

そこで、この「地球沸騰化 (global boiling)」について、技術的側面から解決方法や対策を考え、その技術やシステムをレゴで表現しなさい。製作時間は60分です。終了後、個別に10分程度の説明をしてもらいます。

佐賀新聞 2024年9月12日(木)

佐賀市、年間猛暑日最多

39日、記録的暑さの1994年を上回る

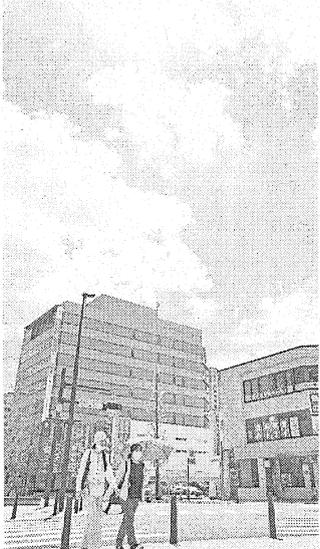
佐賀市で11日、最高気温が36.2度となり、35度以上の猛暑日の年間日数が39日に到達して過去最多となった。記録的な猛暑となった1994年の日数を上回った。9月に入ってから最も厳しい残暑が続き、11日まで6日連続の猛暑日となっている。福岡管区気象台によると、今後も九州北部地方は暖かい空気に覆われ、平年よりも高い気温が続く見込み。

佐賀地方気象台による 庄の影響で暖かい空気に覆われ、佐賀市は7月20日に35度を超えて晴れ、日照時間も平均0度を観測して今年初め年より長く高温になりやすかった。7月25日から8月18日まで25日連続で猛暑日となり、94年は佐賀市で現在も観測記録した。猛暑日の月間史上最高となる最高気温39.6度を観測している。7月が9日、8月は24日、最高気温が最も高かったのは8月5日の38.3度だった。太平洋高気圧が社会問題化した。

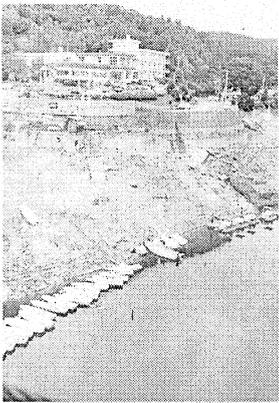
また、唐津市の観測地点ではこれまで9月4日(2022年)が最も遅い猛暑日だったが、11日には最高気温35.2度を観測して更新している。今後も日中の高温は続

き、県内では16日までの3連休にかけて猛暑日となる所もある予報が出ている。対策などの健康増進や農作物の管理に引き続き注意するよう呼びかけている。(中島華毅)

福岡管区気象台は、熱中症



猛暑日となり、強い日差しに日傘を差して歩く人たちの姿が多く見られた。11日午後、佐賀市



記録的な猛暑となった1994年は過酷が深刻化し、現在の佐賀市軍士町の北山ダムは貯水率が大きく落ち込んだ同年8月15日撮影